



神奈川施保連ニュース第106号

神奈川県知的障害者施設保護者会連合会 広報部会



楽しいお正月を過ごされたことだと思います。昨年は少しでも理事会が機能するよう、ズームを導入しましたが、対面での理事会のようにはまいりませんでした。一方、障害者に係る話題としては、昨年行われました障害者権利条約に係る日本審査の結果が公表され、地域移行あるいはインクルーシブ教育などが取り上げられています。また、現在パブリックコメントの募集が行われている「地域福祉支援計画(第五期)」等、いざれも地域での生活、融和の推進が掲げられていました。

理想的な考え方ではあると思いますが、それを実現するために社会的な理解を得られるための教育、職員のスクールアップ、所得保障等々、様々な障壁を取り除いていかなければなりません。

神奈川施保連  
会長 大矢武久

年頭所感

現実の問題として知的障害のある人たちの高齢化に伴うのが、いの重度化が進んでいます。事故を未然にへ防ぐため、看護師配置の充実、あるいは一般の市民に呼びかけられて「ガン検診」を知的障害のある人たちも受けられる支援体制の構築。また一方では特別支援学級を終えて入所施設を利用する若い人たちに対する課題にも目を向けて行かなければなりません。「ともに生きる社会かながわ憲章」の普及にはまだまだ解決すべき多くの課題が残されています。今年度もこうした課題について、県・市町村との意見交換会、必要に応じて要望書の提出。また全施連、施設団体連合会等、友誼団体との連携を図り、各部会の活発な活動と併せて積極的に進めてまいりたいと思います。

一向に衰えをみせぬ新型コロナウイルス。なかなかウイズコロナとは参りませんが、皆様の積極的な企画への参画、ご協力をお願ひ申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

**意見A(小柱16・17)**

**重点事項⑦**

神奈川県地域福祉支援計  
神奈川県

厚生労働省は、20年前に「入所施設は推奨せず」という見解を出し、グループホームへの地域移行を行い、共生社会を実現するという構図を打ち出しました。

これは、入所施設の存在意義を無視したものであり、入所施設利用者の家族からも理解を得られず、思うように地域移行が進まない原因にもなっています。

ちなみに、神奈川新聞が入所施設に出したアンケート調査によると、地域移行が進まない理由の8割が、利用者家族が賛成しないとなつています。

本来的に入所施設が良いかグループホームが良いかは、知的障害者の障害特性あるいはその他のニーズによつて選択すべきであります。

利用者家族からみれば、入所施設からグループホームへの一方通行政策は廃止して、UターンOKに政策転換を

所施設もグループホームも共存するものと認識しています。ところが、厚労省の考えだと入所施設は悪であり、そこからの脱却<sup>II</sup> グループホームへの移行が善であるとみなしており、入所施設からグループホームへいったん移行したとして、利用者が不満足であったり、一生元の施設には戻れないという片道切符、一方通行であるため、ほとんどの利用者家族は、入所施設が不満でもないし、せつかく入れたのに、なぜグループホームへの移行をおこなうのかと拒絶反応をしめしてしまったのです。

入所施設とグループホームは共存共栄と考え、グループホームの生活に馴染めない等不都合であれば、入所施設に戻れるといふ柔軟な施策に転換すれば、グループホームへの移行も現在より進むものと考えられます。

入所施設からグループホームへの一方通行は廃止して、UターンOKに政策転換してください。

## **意見 B （小柱 15）**

入所施設の長所は、強度行動障害者、重度自閉症者、重複障害者等の対応が相対的に優れており、日中作業においてもそのレパートリーは広く、陶芸・彫刻・粘土細工・園芸・果樹園・パン・豆腐など多彩であり、栄養管理・医療面においてもそれがなりの人材とノーサウルをもっています。ところが、厚労省はそうした入所施設の長所を評価せず、入所施設からグループホームへ移行するという構図に執着しているかのようであり、そのため入所施設の有効活用について踏み切っていません。

入所施設を地域支援の  
中核拠点に、地域GH支  
援、地域人材育成、福  
祉研究等の中核拠点に

給与・休日などの待遇面で世間相場より低いため、慢性的に人手不足問題があり、一方虐待問題が起きたたびにスタッフの資質・能力が問題視され、人材の確保・定着・能力向上が大きなか

## 意見C（小柱6・7・8） 重点事項③

強度行動障害者の場合、こだわりが異常に強く、それを無理に是正しようとすると逆に利用者は心理性に抑圧されると認識し、自他傷行為に及びそれを抑えようとするとますます自他傷行為がエスカレートするという構図になっています。これを抑えようとすると、その気はなくとも虐待行為に発展するわけです。

スタッフは冷静に利用者の意図・要望・欲望が

普を同時にを行うことがマ  
ストであるということです。さらに、入所施設ス  
タッフは本来的にエッセ  
ンシャルワーカーとして  
位置づけられる職種であ  
り、このことをより明確  
にするためにも資格制度  
導入の意義があると考  
えられます。

前立腺がん・大腸がん・肺がん・乳がん、対象年齢は子宮がん20歳以上、前立腺がん50歳以上、その他のがん40歳以上、料金に若干の差異があるものの、ほぼ同じレベルで市民に行われています。

ところが、知的障害者施設の利用者の場合、40歳以上になつて癌検診を受けたという実例がほどんどないのではと推測されています。

用に踏み切れず、まさに宝の持ち腐れといつても過言ではありません。そこで入所施設を地域支援の中核拠点にして有効活用していきます。

①地域グループホームの支援機能・補完機能を果たす。（グループホームに傷病人が出た場合救急車に世話人が同乗するとグループホームには世話人は0になることへの対策等）

②地域の研修・人材育成の中核拠点として活用③障害者研究施設として

課題となつてきました。最近、この問題に対す  
る解決策として意見が集約されつつあるのが入所後一定期限後（3年が多い？）資格制度を適用して処遇改善を図るとともに資質・能力の向上を図るという施策であります。

虐待問題は処遇改善問題とは一見無関係に思われますが、弘済学園での研究データによりますと、虐待問題のうち、大きな問題は強度行動障害者のケースであり、そのうち8割はスタッフの対応で解決が可能とのことです。

なんのかを探る努力をして、その線上で忍耐強く対応していくことしか解決しないと覚悟して対応することだそうです。このことがわかつていて、のならそういう研修訓練をするればよいのではと思われるかもしれません。ところが各施設とも研修予算がありそうで、実際は休日増加予算に変更されているケースとか、とにかく人手不足解消のための待遇改善策に回っているのが実態です。この問題は待遇改善と

## 意見D（小柱1） 重点事項⑧

## 意見D（小柱1） 重點事項⑧

そこで弊会では、入所施設およびグループホームにおいて癌検診が行われているかどうかのアンケートによる実態調査と、癌検診が行われていない場合どのような理由があるのかについても実情を調査するよう準備を進めています。

その後、実施率を引き上げるための施策展開について検討し、県にもご協力をお願いすることがあると思いますのでよろしくお願ひいたします。

以上

以下は二つの家族会から第5期福祉計画について県に提出したご意見を紹介いたします。

## 紅梅家族の会

会長 稲垣正光

「神奈川県地域福祉計画第5期素案」に関する意見

神奈川県の当事者目線の障害福祉推進条例の3条の基本理念は私たちの願いに応えたものだと思います。①すべての県民が人として

親・兄弟などが遠くに住んでいたり、親の方も高齢で会いに行けない方もいたりと、移動支援の必要な方はますます増えてきます。また、養護学校時代の知り合いの住むグループホームに行つたり、介護施設にいる親に会いに行つたりと会にどんどん関わっていくことは入所利用者さんの生

大切にされることと、②障害のある人が自分のことは自分で決められるようにする場所で自分らしく暮らすことが出来るようになります。③障害のある人が住みたいと思う場所で自分らしく暮らすことができます。

## 【重点項目の⑧】

是非これらの課題が実現できるよう、上記素案の重点項目を充実させる4つの要望を提出します。

現在、入所施設の利用者には外出などの移動支援サービスは一切認められていません。

1 現在、入所施設の利用

親族は、自分たちの高齢化も迫る中、施設入所の希望者は多く、入所待ちの方も多いと聞きます。

2 県内の知的障害者の親、親族は、新たな入所施設の新設には消極的な中ですが、県内の入所施設は短期入所の所を含めて、偏在しています。障害者施設は、支援スキルの宝庫でもあります。偏在していれば、障害者支援の人材育成も阻害されてしまいます。

3 ウクライナ関連で物価、水光熱費が高騰しています。

4 障害者だからといつて

多く、入所待ちの方も多いと聞きます。

3 ウクライナ関連で物価、水光熱費が高騰しています。

4 障害者だからといつて

利益を生まない福祉施設でできるようにしていただ

きたいと思います。

思います。

是非、一定の条件付きで

も、移動支援サービスを利

用できるようにしていただ

ければこそ、臨機応変の

助成金が必要です。

5 障害者だからといつて

多くの人が住みたいと思

う場所で自分らしく暮

らすことが出来るようす

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

寄稿

津久井やまゆり園  
みどり会 細谷孝司

【意見小柱20】

「地域生活ができない障害者に対する県の考え方」

素案において「地域で暮らすことができる場所の確保に取り組みます」と記載しています。

障害者の場合は、地域と  
いうと、居宅かグループホームになりますが、入所者が  
グループホームの見学や入居体験をしても、入居にな  
じまず、入所施設で生活せ  
ざるを得ない障害者が存在  
すると思いますので、その  
点を考慮した内容も素案に  
入れていただきたい。

# 中井やまゆり園での 虐待問題について

それにつき年末年始に思つたことを記してみたいと存じます。 詳細な事実関係には不明な点が多くあるものの、現場の職員の現状に問題があることは確かでしよう。 強度行動障害者への対処は容易なことではないのに、現場は常に人手不足気味で、技術量をみがく訓練も不十分、そしてそうした苦労は世間ではほとんど理解されていない。

大規模入所施設で問題が浮上した以上、そうした施設をなくせば良い、などという論すらある状況です。 小規模の施設やグループホーム、あるいは家族の中で暮らしている障害者には虐待問題はないのでしょうか。

たとえ発生したとしても目立たず世間に知られることがないだけなのではないでしょうか。

グループホームなどの中にはうまくいっているものもたくさんあるのは事実です。 しかし、そうしたところでも優秀な現場職員があり

あまつてゐるわけではありません。そして、数年前の犯罪自書によれば、家族の手によつて命を奪われた知的障害者は1年で百人近くにもなるそうです。

そこまで至らなくとも虐待を受けている人数となると何人になるのか全くわからぬ。

国連の某委員会の勧告を錦の御旗にして大規模施設を無くすだけでは、結局のところ、臭いものにフタをするだけになりかねません。

現場の職員が質量とともに不足しているのが本当の問題であることが覆い隠されてしまうでしょう。

社会福祉の様々な現場はもちろん、日本社会の多くで人手不足問題が顕在化している折から、この問題の解決は容易ではありませんが、そこで大規模入所施設が果たすべき役割がきっとあるはずです。

国連勧告の真の趣旨に沿い地域移行の理念を実現するにはその方向を目指すべきだと思います。

## 編集後記

編集後記

障害を持つ人たちが病気になったとき、  
をしたときに備えて

神奈川施保連では、知的障害児者や自閉症児者が病気やケガをしたとき、また、そのために入院したときなどに備え、「やまゆり知的障害児者生活サポート協会」の運営に参加しています。加入資格、その他の詳細は、下記までお問い合わせください。

やまゆり知的障害児者生活サポート協会

〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2

神奈川県社会福祉会館内TEL 045-314-7716

FAX 045-324-0426

編集担当

杉山昌明